

第19回 ヤマト福祉財団小倉昌男賞 贈呈式
主催 公益財団法人ヤマト福祉財団



【第19回】ヤマト福祉財団小倉昌男賞 贈呈式

地域の理解が深まるたびに
障がい者の働く場も広がっていく



Profile

1949年福井県生まれ。1970年東京都立小平養護学校教諭。1981年きょうされん事務局長。1982年あさやけ第二作業所(精神障害者共同作業所)施設長。2018年現在、NPO法人日本障害者協議会代表、日本障害フォーラム副代表、きょうされん専務理事

昔はみんな いっしょだった

障害のある人の書物上の登場は随分と古い。最古の古事記や日本書紀に出てくる。そこには「蛭子」(ヒルコ)と記され、肢体にマヒがあると推測される。平安時代以降、縁起物として七福神が回るが、これら七柱の神々には何らかの障害があるとされた。江戸時代になると、落語が庶民の身近な芸能となる。落語の世界で欠かせない登場人物に、熊さん、八つあんと並んで「与太郎」がいる。この与太郎には、知的障害が重なるのである。

ノーマライゼーションという言葉をご存じだろうか。その心は、「いろんな人がいてこそノーマルな社会」で、多様性の尊重をアピールする造語である。1950年代の後半に北欧で法律理念にまでなったこのノーマライゼーションは、あつという間に世界を駆け巡った。

しかし、よくよく考えれば、この多様性や寛容性は、日本でも大昔から江戸時代の頃までは人びとの暮らしの中に自然と溶け込んでいたのである。明治時代以降の富国強兵、殖産興業の流れが強まる中で、障害のある人は一気に社会の隅に追いやられてしまった。この傾向は、戦争の時代に強まることになる。世界史の規模で見れば、ナチスドイツの蛮行はすさまじい。虐殺された障害者は、20万人以上に及ぶ(本誌「NME TOPICS」P19で紹介の「わたしで最後にして ナチスの障害者虐殺と優生思想」を読んできたい)。

ところで、障害のある人の人口比はどれくらいだろう。WHOの報告では15%、ニュージーランドでは22%を前提に社会の仕組みをつくっている。厳密にいうと、人は例外なく絶命の寸前には障害状態をくぐる。もはや、障害のある人のことを、単純にマイノリティーとは言えない。

オリンピック・パラリンピックが来年に迫った。漢字圏の中国や朝鮮半島、台湾、そして日本で、「しょうがいしゃ」に「害」を充てているのは日本だけである。妨げを意味する「碍」の常用漢字化については、国会においても文科省所管の国語審議会においても新たな動きがある。踏み込んだ結論を導いてほしい。漢字圏のパラアスリートに不快な思いをさせないためにも。

CONTENTS

表紙写真 第19回小倉昌男賞受賞者の上野容子さん(右)、村上和子さん(左)のお二人。贈呈式会場にて

- 03 第19回ヤマト福祉財団小倉昌男賞 贈呈式
地域の理解が深まるたびに
障がい者の働く場も広がっていく
- 09 障がい者の働く場パワーアップフォーラム
沖繩キックオフ!

- 10 ネパール小児白内障治療プロジェクト
アイキャンプ(眼の診察)に400人以上の子どもが集まりました
- 14 助成先レポートVol.36 社会福祉法人 有田つくし福祉会
早月農園(和歌山県有田郡有田川町)
地域に根を張って共に生きる「農福連携」
- 16 この街で、一緒に生きていく。障がい者のクロネコDM便配達事業
新しいポストへ配達するたびに、新しい町の地図ができていく。



地域の理解が深まるたびに 障がい者の働く場も広がっていく

12月6日「第19回ヤマト福祉財団小倉昌男賞 贈呈式」を開催しました。本賞は障がいのある方の雇用の拡大、労働環境の向上、高い給料の支給などに努められた2名の方に贈られます。第19回受賞者は、地元の理解を深め、利用者さんの自立に長年取り組んでいる上野容子さんと村上和子さんです。



写真前列左より森下明利ヤマトグループ企業労働組合連合会会長、受賞された上野氏ご夫妻、上野容子さん、村上和子さん、瀬戸 薫ヤマト福祉財団理事長。
後列左より金森 均ヤマトホールディングス(株)代表取締役副社長、神田晴夫ヤマトホールディングス(株)代表取締役副社長、木川 眞ヤマトホールディングス(株)取締役会長、山内雅喜ヤマトホールディングス(株)代表取締役社長、森 日出男ヤマト運輸(株)代表取締役会長、長尾 裕ヤマト運輸(株)代表取締役社長。



祝賀会会場では、お二人の事業所を紹介するパネルが、飾られました。



受賞されたお二人のご家族や、関係者もお招きし、盛大に執り行われた贈呈式



受賞者に贈呈したのは、正賞として両宮 淳氏作のブロンズ像と賞状、副賞として賞金100万円の目録です。



「上野さんは、地域福祉の最前線に立つ一方、大学で日本の福祉を担う新たな人材も育成してきた」と上野さんの推薦者・(社福)豊島区社会福祉事業団の横田 勇理事長



「私たちのソーシャルファームの活動が広がっているのも、賛同いただいた上野さんの行動力の賜物です」と(NPO)コミュニケーションシクタンクあうるずの菊池貞雄理事長



「こんな素晴らしい賞をいただいて、新たな目標に向かって動き出すためのよいきっかけになりました」と上野容子さん

社会的自立を願う利用者さんに地域 で必要とされる仕事と働く喜びを

昨年12月の障害者週間に日本工業倶楽部(東京都)でヤマト福祉財団小倉昌男賞贈呈式を開催。受賞者の仕事関係者やご家族、歴代受賞者なども招待し、華やかに催しました。

「歴代受賞者の内訳を見ると男性が多く白組が優勢のようですが、今年は女性お二人と紅組も盛り返しています」と冒頭挨拶で会場を和ませた瀬戸 薫理事長。(社福)豊志会理事長の上野容子さんと(社福)シンフォニー理事長の村上和子さんの功績を、先月お二人の施設を見学した際の感想を交えながら紹介しました。

「上野さんは、支援を必要とする障がいのある方が、他の障がいのある方や高齢者のために、支援する側として働き、地域に貢献できる仕組みをつくられています」。

上野さんは大学卒業後、精神科ソーシャルワーカーとして勤務するかたわら、障がい者の自立をサポート。地元との結びつきを大切に、互いに助け合える方法を模索します。25年前、ひとり暮らしの障がい者や高齢者に、手作り弁当を手渡して配達する飲食店『ハートランドひだまり』を開店。これにより精神障がい者と地域の方の接点をつくり、理解を深めることができました。現在は(社福)豊志会として豊島区の『ひとり暮らし高齢者配食サービス事業』を受託。毎日300食以上をお届けする、地域になくてはならないフードサービス事業所となっています。

村上さんは、大分県で知的障がい者の働く場の拡大、また交通機関の利用に関する支援など生活環境の改善にも取り組まれています。学校を卒業した子どもたちに通う場がない

と涙する保護者の思いを受け、27年前にわずか6畳のスペースでファンシーショップを開業。これを足がかりに、キーキョップ、包装センターと新たな働く場を次々と創り出しました。1998年には(社福)シンフォニーを設立し、雇用契約を結びながら最賃を保証する就労継続支援A型事業所の夢も実現します。

「私が施設を訪れたのは給料日の前日。明日はなんの日? と利用者さんに聞くと、給料日です! と元気に答えてくれました。働いて給料をもらう、この当たり前の喜びの大切さを彼らの笑顔があらためて教えてくれたのです」と瀬戸理事長は紹介しました。

お二人に共通するのは、卓越した行動力 そこには数字では見えない感動がある

選考の経緯は、選考委員を代表してきょうさんの藤井克徳専務理事が発表。

「お二人に共通しているのは、先ずはやってみようとする卓越した行動力。障がい者が働くことを通して、地域に貢献できるように挑戦を続けられています。そこには給料などの数字だけでは計れない感動があり、選考委員の心を強く動かしたのです」。

そんなお二人の姿勢は、推薦者の言葉からも垣間見えます。

「上野さんは、精神障がい者が地域で生活するために必要な行政支援について、待っているだけではダメだと自ら仕組みを考え提案。ボランティア活動を通じて実績を示し、周りを納得させ制度化を実現しました」と(社福)豊島区社会福祉事業団理事長の横田 勇さん。

北海道の(NPO)コミュニケーションシクタンクあうるず 理事の菊池貞雄さんは「私たちは、ソーシャルファームとして社会的雇用弱者を応援しています。課題は生産した農産物をど



「村上さんは、障がい者福祉の夢を奏でるシンフォニーのコンダクター」と村上さんの推薦者・(社福)大分県社会福祉協議会 大分県身体障害者福祉センターの塩崎政士参事



「お二人の活躍の中心には、いつも利用者さんがいる、それがなにより大事なこと」と選考委員を代表してきょうさんの藤井克徳専務理事



「今後も障がいのある方に働く喜びと尊厳ある生活を提供してほしい」と厚生労働省 社会・援護局 障害保健福祉部の橋本泰宏部長



「利用者さんの働く姿を見ることで、地域の方の障がい者への理解は深まり、いろいろな形で私たちの活動を応援いただけるようになりました」と村上和子さん



「共生社会は、障がい者の社会参加と自立なくして実現できません。お二人の長年にわたり信念を貫き築かれてきた実績に敬意を表すとともに、これからのご活躍に期待をします」とお祝いの言葉を贈りました。

贈呈式のクライマックスは、両受賞者のスピーチ(P8に抜粋)です。これまでの苦労と今日の喜びをかみしめてお話しされる姿に、会場は感動と祝福の拍手で包まれました。

その後の祝賀会でも、受賞されたお二人の周りには、終始お祝いの言葉を伝える方たちが集い、笑顔が絶えることはありませんでした。

来賓祝辞には、厚生労働省 社会・援護局 障害保健福祉部の橋本泰宏部長が登場。

「共生社会は、障がい者の社会参加と自立なくして実現できません。お二人の長年にわたり信念を貫き築かれてきた実績に敬意を表すとともに、これからのご活躍に期待をします」とお祝いの言葉を贈りました。

長年にわたり信念を貫いてきた姿に敬意とこれからの期待を込めて

続いて瀬戸理事長が、推薦者の言葉にもあった正賞の雨宮淳氏作のブロンズ像「愛」と賞状、ならびに副賞賞金100万円をお二人に贈呈。上野さんを陰で支えるご夫君と、病気のため欠席された村上さんのご夫君の代理で出席したスタッフに、花束を手渡しました。

来賓祝辞には、厚生労働省 社会・援護局 障害保健福祉部の橋本泰宏部長が登場。

「共生社会は、障がい者の社会参加と自立なくして実現できません。お二人の長年にわたり信念を貫き築かれてきた実績に敬意を表すとともに、これからのご活躍に期待をします」とお祝いの言葉を贈りました。

贈呈式のクライマックスは、両受賞者のスピーチ(P8に抜粋)です。これまでの苦労と今日の喜びをかみしめてお話しされる姿に、会場は感動と祝福の拍手で包まれました。

その後の祝賀会でも、受賞されたお二人の周りには、終始お祝いの言葉を伝える方たちが集い、笑顔が絶えることはありませんでした。

「村上さんは、知的障がい者が、一般生活を送るための施設内訓練はもちろん、公共交通機関を楽に利用して職場に通える仕組みまでも創り上げました。その根底に流れているのは、深い母親の愛情です。本賞のブロンズ像の写真を見たとき、これこそ村上さんにふさわしい賞だと思いました」。

「村上さんは、知的障がい者が、一般生活を送るための施設内訓練はもちろん、公共交通機関を楽に利用して職場に通える仕組みまでも創り上げました。その根底に流れているのは、深い母親の愛情です。本賞のブロンズ像の写真を見たとき、これこそ村上さんにふさわしい賞だと思いました」。

「村上さんは、知的障がい者が、一般生活を送るための施設内訓練はもちろん、公共交通機関を楽に利用して職場に通える仕組みまでも創り上げました。その根底に流れているのは、深い母親の愛情です。本賞のブロンズ像の写真を見たとき、これこそ村上さんにふさわしい賞だと思いました」。

「村上さんは、知的障がい者が、一般生活を送るための施設内訓練はもちろん、公共交通機関を楽に利用して職場に通える仕組みまでも創り上げました。その根底に流れているのは、深い母親の愛情です。本賞のブロンズ像の写真を見たとき、これこそ村上さんにふさわしい賞だと思いました」。

「村上さんは、知的障がい者が、一般生活を送るための施設内訓練はもちろん、公共交通機関を楽に利用して職場に通える仕組みまでも創り上げました。その根底に流れているのは、深い母親の愛情です。本賞のブロンズ像の写真を見たとき、これこそ村上さんにふさわしい賞だと思いました」。

社会福祉法人豊芯会 理事長 上野 容子さん

精神障がい者の夢や希望に寄り添い続けた47年

東京都豊島区で先駆的に精神障がい者支援に取り組んできた上野容子さんを訪ねました。

DATA

社会福祉法人豊芯会
フードサービス事業所(配食部門)／就労継続支援A型 2017年平均工賃 15名 86,699円
ふれあいファクトリー(喫茶部門)／就労継続支援A型 11名
※他にB型・地域活動支援センター・生活介護等 総勢149名が利用している。

豊島区の高齢者や障がい者を支える フードサービス事業

現在は、一日300食を製造・配達し、12名の障がいのある人に就労継続支援A型事業所として雇用契約を結んでいます。高齢者や障が

い者が毎日健康でいられるように一般のお弁当では入らない煮物などを豊富に取り入れたお弁当は、評判も上々。10時過ぎにはでき上がり、みなさん手分けして配達に向かいました。手作り感満載のお弁当を毎日お届けするしくみが評価され、豊島区からひとり暮らし高齢者・障がい者の配食事業も請け負っています。また、豊島区役所新庁舎の喫茶・レストラン「Cafeふれあい本店」および北区十条にある東京都障害者総合スポーツセンター内喫茶コーナー「Cafeふれあい十条店」の経営も任されて、働く場が大きく拡がってきています。

障がいのある人が 事業所の責任者に ソーシャルファームの世界を具現化

障がいのある人に寄り添いながら活動をつづけてきた豊芯会は、ソーシャルファームの活

動に賛同して、障がい者を職員として抜擢する動きが活発です。豊芯会ビル1階の「喫茶ふれあい」、豊島区役所「Cafeふれあい本店」では障がいのある人が店長としてお店を取り仕切っています。上野さんから支援者が障がいのある方と話し合いながら活動してきた豊芯会。障がいのある人もない人も分け隔てなく働く真の共生社会がそこにはありました。



豊芯会ビルの前で



お弁当の盛り付け作業を見学



別フロアでは軽作業も行っています



配達には徒歩と自転車



具材をふんだんに使った八宝菜のお弁当

社会福祉法人シンフォニー 理事長 村上 和子さん

知的障がい者に対する 手厚い支援が特徴

大分県の知的障がい者の支援で実績をあげた社会福祉法人シンフォニーを創設した村上和子さんを訪ねました。

DATA

社会福祉法人シンフォニー
多機能型事業所コンチェルト/就労継続支援A型 2017年平均工賃 (リサイクル部門 10名 89,166円)。(喫茶・レストラン ネバーランド部門 21名 2017年平均工賃 62,353円)
※他にB型・地域活動支援センター・居宅介護・生活介護等、総勢230名余りが利用している。



移築保存されているファンシーショップ「ネバーランド」1号店の前で記念撮影



発語が苦手な帆足さんは、自宅での出来事を身振りで教えてくれました。



大分県庁別館でランチをデリバリーする様は、堂々としたものでした。

素早くランチの配膳準備をする本川康平さん



大分市役所種田支所喫茶コーナー「ネバーランド」わさだ店のみなさん

毎日の通所は、路線バスで

村上さんは、マニュアルを整備し支援を繰り返すことで、知的障がい者の公共交通による通所に取り組んでいます。訪問した日は、朝8時過ぎに近くのバス停で待つことになりました。やがて各方面から到着する路線バスから、利用者のみなさんが降車してきました。朝の挨拶を身振りですでしてくれる人もいます。「施設の都合ではなく、社会と接する大事な機会をつくるというのを大切にしています。丁寧に経験を重ねていくと、できることが増えるんです。」そこには、自立した大人に成長した姿がありました。

喫茶・レストラン「ネバーランド」

シンフォニーの最大の特徴は、ネバーランドという喫茶・レストランのしくみにあります。共通しているのは、自動券売機を活用して会計の

手間を解消していることです。この日は、大分市役所種田支所喫茶コーナー、県庁別館食堂、大分中央警察署地下レストラン、大分市コンパルホール喫茶、計4カ所の「ネバーランド」を巡り、みなさんの働きぶりを見学しました。現金を扱う必要がないため、どのネバーランドでも支援スタッフは厨房で調理に専念し、知的障がい者のみなさんが接客、配膳を立派にこなしていることが印象的でした。県庁別館食堂では、館内のデリバリーも行っている忙しい県庁職員のみなさんを支えていました。

ファンシーショップ

「ネバーランド1号店」の思い

村上さんの活動の原点は、ログハウスのネバーランド1号店。現在も、本部に移築されて大切に保存されています。「仕事をするといいのは、社会との接点をもつということなんです。」本

部には、野菜の直売所も併設して「社会との接点」を実現。知的障がい者への理解を深めることも重視して始めたファンシーショップ開店時の思いは、シンフォニーに通う人たちに寄り添いながら後々まで伝えられることでしょう。



路線バスから降りてきた帆足吉朝さん



社会福祉法人豊芯会
理事長 上野 容子さん

1948年 栃木県宇都宮出身。1971年 日本社会事業大学卒業(高崎健康福祉大学で保健福祉学博士の学位なども取得)。医療法人白十字会松見病院などで精神科ソーシャルワーカー(PSW)として勤務。1982年「若草の家」開設。1993年 作業所「ハートランドひだまり」所長。精神障がい者の働く場づくりを掲げ宅配事業と飲食店を開始。1995年 社会福祉法人の認可を取得し「豊芯会」の副理事長へ。2001年 豊島区の「ひとり暮らし高齢者配食サービス事業」を受託事業として契約。2008年 障害者自立支援法に基づく事業に移行し、就労移行、就労継続支援A/B型の多機能型事業所を開設(A型事業はフードサービス事業所)。2012年に相談支援事業を、2013年に自立訓練、2016年に生活介護事業を開始。

それぞれの事情に寄り添う ソーシャルワークを

上野さんの
受賞の言葉

はじまりは障がい者の社会参加

私は、昨年3月に大学の教壇から離れ、いまは地元での活動に専念しています。本日この栄えある賞をいただきますことで、初心にかえってまた頑張りなさいと、後押ししていただいている感じがしています。

私の原点は、地域でのソーシャルワーカーとしての活動にあります。障がいのある方一人ひとりをしっかりと見つけ、支援していくこと。人それぞれに合った訓練などを行えば、一緒に対等に仕事をしていきます。どんな障がいがある方でも、仕事を通して社会の大切な役割を担い、誇りを持って生きていくことができるはず。そんな思いで開設したのが、手作り弁当を配食する「ハートランド」でした。

もっと多くの方と次の一歩を

現在は、社会福祉法人として区よりひとり暮らしされる高齢者の配食サービスを任せられ、事業規模は広がっ

ています。しかし、それは簡単な道ではありません。しかも、それは簡単な道ではありませんでした。限界を感じてやめてしまおうかと思ったこともあり。そんなとき「あなたの思いはそんな程度か」としかりとばしてくれただけ、地元の方の支えられて、私たちの活動は、福祉の仕事は成り立っている、私はそう実感しずっと感謝をしています。

いま私は、ソーシャルファームという活動にも賛同し、新たに出会えた方たちと力を合わせ、前に進もうとしています。これからは障がいのある方だけではなく、シングルマザー、さらに法を犯して働きたくても働けない方など、それぞれの事情を理解し寄り添ったソーシャルワークが必要です。そのためにも、かつて私が周りの方に支えていただいたように、今度は私が若い人たちのアイデアや自主性を大切に引き出してあげたいと思っています。



社会福祉法人シンフォニー
理事長 村上 和子さん

1952年 兵庫県神戸市生まれ。1974年 大分大学教育学部卒業後、公立学校に8年間勤務。1990年 長男の養護学校入学を機に母親たちと施設建設を検討。1991年 ネバーランド森町店を開店(現在は9店に拡大)。1996年 市の公共施設内喫茶レストランの運営を任せられ、知的障がい者が公共施設で働くモデルへ。同年 大在店が隣家への放火で全焼(翌年市民や団体からの支えで再開)。1998年 社会福祉法人シンフォニー設立。1999年 知的障がい者ホームヘルプサービスを県下初開始(その後、身体障がい者および児童のヘルパー事業、自立生活促進事業、デイサービス、グループホームも開始)。2006年 障害者自立支援法施行に伴い新事業体系へ移行。2007年 就労継続支援A型事業「コンチエルト」開始。

利用者さんの夢が広がる シンフォニーを奏でたい

村上さんの
受賞の言葉

火事になって残ったものは

この晴れやかな席に立ち、これまでを振り返って感じるのは、地域の方に障がいのある者たちが働く姿を見知っていたく、重要性です。

1996年12月、みんなが苦勞を重ねてやっと軌道に乗りはじめたケーキショップ・ネバーランド大在店が、隣家への放火のため焼失しました。現場に駆けつけると店内は真っ黒に。買ったばかりのショーケースもクリスマス飾り付けも、すべて焼けこげていました。被害は数百万円になったでしょう。私の足はガクガクと震えていましたが、一番の心配は金額よりも「障がい者は火を起す」と噂されることでした。

落胆し家に戻ると早速、電話が鳴り響きます。電話からは「近所の者だと高齢者の男性の声。申しわけありませんと、ひたすら謝り続ける私に「あんた方は悪くない、みんなわかっちゃう

よ。元気出し「いやさしく声をかけていただいたのです。その後も多くの方から励ましの電話やお手紙をいただき、中にはお子さんが貯めてきたであろう小銭の詰まった貯金箱まで送られてきました。

若い世代と力を合わせて

地元の方の援助のおかげで、大在店は翌年に再開できました。私たちは火事でも多くのものを失いましたが、本当に大切なもの「地域の信頼」はしっかりと残っていたのです。それもすべては、町に出て地元のみなさんに利用者さんが働く姿を見ていただいていたからこそだと思っています。

本日いただいた賞の名に恥じないように、これからも障がい者が自分にあつた働き方ができる環境づくりと支援を目指していきます。私が学んできたことを若い職員に伝え、みんなで力を合わせ、利用者さんの夢を広げていく、そんなシンフォニーを奏でていきます。

＼ 沖縄の障がい者福祉を段階的に応援！

障がい者の働く場パワーアップフォーラム

沖縄キックオフ！

10月26日、沖縄で6年ぶりのパワーアップフォーラムを開催しました。現在、県内の福祉施設数は約500に増え、利用者さんの仕事の確保と支援など、課題も増大。パワーアップフォーラム沖縄実行委員会が中心となり、これらの課題に自ら考え、取り組みを進めています。そんなみなさんを、ヤマト福祉財団は3年かけて段階的に応援することを計画。今回はそのキックオフです。



沖縄県で障がいのある方の働く場の拡大などにながでできるのか。シンポジウムでは、左からさようされん 藤井克徳専務理事、(有)やんばるライフ 比嘉あみ子専務取締役、(株)ゆにばいしがき津嘉山 航代表取締役、(社福)トウムヌイ福祉会 喜納 平理事長、パワーアップフォーラム沖縄実行委員の新垣潤一氏が、それぞれの取り組みや意見を語りました。

四つの分科会で、今後の取り組みを検討

分科会1「食文化・販路開拓・アンテナショップづくり ワークショップ」
～食文化・販路開拓イベントやアンテナショップづくり



「沖縄ならではの食材を活かした飲食事業について、アイデアや意見を出し合いました」。

分科会2「ビジネスマッチングワークショップ」
～地場企業と障がい者施設の出会いの場づくり



「ジョブマッチングで、弱い立場の障がい者にも夢のある仕事と働き方を実現します」。

分科会3「観光・おもてなしワークショップ」
～観光やインバウンド・クルーズ船のおもてなしを通じたマルシェ・イベントづくり



「それぞれが行う事業や商品を活かすために、興味のあるところから勉強会を実施します」。

分科会4「何からはじめよう 仕事おこし ワークショップ」
～これから、仕事を始める新しい事業所のためのネットワークづくり



「『あれをしたい、これをしたい』から、見学会や勉強会を積み重ね、事業を形にします」。



四つの分科会で話し合ったポイントを各代表者が報告しました。

第1回目は、先駆者の取り組みや互いの情報・意見交換からスタート

「沖縄は、障がい者福祉施設の数が人口比からみて非常に多い県です。これを機に情報を交換し合い、自分たちにながでできるかを考えてください」と瀬戸理事長が開催挨拶をしました。続いてさようされんの藤井専務理事がコーディネーターとなりシンポジウムへ。障がい者の働く場の拡大などを進める3名が登壇しました。

(社福)トウムヌイ福祉会の喜納平(きなたいら)理事長は、県産の豚肉やバイキング形式のメニューなどで人気レストランを経営。「私たちには利用者の給料を高くするというゴールがあるので、それに向かってスキームを動かしていく人材が必要です。求人サイトや就職フェアを自ら運営し、人材獲得を図ります」と報告しました。

(株)ゆにばいしがき津嘉山 航(つ かやまわたる)代表取締役は、本島から400kmも離れた八重山地区で

5000坪の農園を経営しています。「マンゴーを柱にサトウキビの苗づくり、島らっきょうの栽培、パイナップル加工などを行っています。農業は細分化するといろいろな仕事を創出でき、土に、自然に触れて働くことでみなさんに良い変化が生まれています」と発表。

清掃用品レンタルのフランチャイズ店を経営する(有)やんばるライフの比嘉あみ子専務取締役は「どんな障がいがあっても工夫次第で関わられる仕事があると気づきました。企業も福祉施設も、人から学んではじめて成長できます。完全な人なんていません。多様性を受け入れることが大切です」と伝えました。

午後は、四つのテーマで分科会を開催し、先駆者たちの事例を参考に、解決すべき問題点などを検討。さらに、藤井専務理事が時流講座を、瀬戸理事長が特別講演を行いました。

フォーラムで生まれた横の連携を活かし、今後も分科会ごとに活動を進めていきます。



左目が斜視、偏頭痛もあるというカルバナ16歳。ネパール語の先生になりたい



クリシュナ校長を先頭にシユリー ダサラット チャンドラ セカンダリースクールの生徒たちが検査の順番を待っています



ヒカリカナタ基金の竹内理事長もヤマトの法被を着て参加



斜視と弱視の両方を診断されたクリジャンは4歳、カトマンズで手術が必要



将来はおまわりさんになりたい、という14歳のババン



理事長も検査のお手伝いをしました



眼の中のホクロを大きくする前に取る手術が必要と診断されたプーナムの夢は心臓専門のドクターになること

ネパール小児白内障治療プロジェクト

アイキャンプ(眼の診察)に400人以上の子どもが集まりました

2018年12月9日～11日



軍隊に入りたいという5歳のアニシユはメガネをかけて斜視を矯正



Dr.サヒナが先頭に立って診察



サッカー選手になりたいという15歳のラトナ。眼にケガをして手術後の検診に



山間の地域でアイキャンプを実施

ネパールの子もたちに希望の光を届ける「ネパール小児白内障治療プロジェクト」がスタート。2018年12月9・10日の2日間にわたり、ダーディン郡の二つの学校でアイキャンプを実施しました。

ヒカリカナタ基金と財団のメンバーは、首都のカトマンズから4WDの車に分乗し、ダーディン郡へ。国道から舗装されていない土埃の立つデコボコ道や、道なき道を約2時間かけて、1日目のチャトラデワラリのククレチヨール村に到着しました。村唯一の診療所では、前日から現地医療チーム(PSSN)が準備を進めています。我々が到着するとすぐに『シユリー ダサラット チャンドラ セカンダリースクール』の生徒が集まってきました。

早速、近視・遠視・乱視などを見る視力検査、斜視を診断する眼球運動や眼位などの検査、色覚検査のち、角膜や水晶体など、それぞれ一人ずつ診察していきます。

視力が弱い子には、検眼を後日カトマンズでメガネを渡せるような処方箋をつくりました。目薬を処方される子ども、斜視や弱視を診断され、矯正トレーニングを行う子ども、矯正手術が必要な子どもも見つかりました。

翌日は、1日目よりもう少し山奥のジープバンパールへ。どろんこの急坂を登ったところに『シユリー マハツシュ ダルマ セカンダリースクール』があります。朝8時過ぎから近所の子どもや生徒が集まってきました。

ヒカリカナタ基金と財団、現地の医療スタッフは、ヤマトグループの法被を着て参加。前日と同じ要領で、診察が進みました。

この二日間で、診察を受けた子どもたちは全部で425人。そのうちメガネが必要な子どもを24人、手術が必要な子ども4人を見つけたことができました。手術が必要な子どもは、カトマンズ医科大学病院で後日手術をすることになります。いずれも無

※PSSN：プロフェッショナル・サポート・サービス・ネパール

ヒカリカナタ基金の竹内理事長が
カトマンズ医科大学で医学生に
講演を行いました



スケジュール3日目の12月11日には、カトマンズ医科大学で竹内理事長が医学生に向け講演を行いました。

講演では、竹内氏の目が見えなくなって、どんな半生を送ってきたか、講演や本を書いた謝金でモンゴルやキルギスにマッサージを教える学校をつくったこと、ネパールでの活動のことなどを話し、最後に「みなさんが、患者さんの病気に対して、患者さんと一緒に戦う、一流の医者になってほしいと祈っています」と講演を締めくくりました。

医学生に混じって、竹内氏の講演を聴いていたナムナマチェンドラ校(普通クラスに目の悪い生徒が学んでいる)の目の悪い生徒が、「感動しました」「目が見えないことが苦だったけれど、話を聞いて楽になりました」「良かった、涙が出てきました」と、口々に感想を伝えてくれました。

在ネパール日本人会商工部会で
瀬戸理事長が講演しました



1日目のアイキャンプが終了した12月9日の夜、在ネパール日本人会商工部会で『クロナコヤマトの「満足創造経営」～お客様の声は宝の山～』というタイトルで、瀬戸理事長が講演を行いました。

現地で働くビジネスマンや、旅行代理店、建設、教育、ホテル、飲食業などネパールで仕事を行う30数社の会員から関係者を含め50名以上が参加しました。

講演後には質問も多く飛び交い、盛況のうちに講演会が終了しました。



メガネが必要なサンデスは恥ずかしがり屋の13歳



斜視が原因で、左目が特に悪くなった15歳のプラクティ。斜視を治して女優になりたい



英語の勉強が好きでピサルは11歳。右目が悪く斜視と弱視の重複の診断



ヤマトグループ他のみなさんのご協力で
文房具をお届けすることができました。
ありがとうございました



診察の終わった生徒に一人ずつ文具のプレゼント



眼は一番重要なので、1年に一度はこのような検査をやりたいとディープ校長

アイキャンプの他に、ネパール盲人卓球協会の見学、視覚障害者教育施設の訪問、カトマンズ医科大学での竹内理事長の講演、日本人会商工部会での瀬戸理事長の講演などを行い、ネパール小児白内障治療プロジェクトのスケジュールを終了しました。

悪い人が見つけやすくなることを願っています、思いを話してくれました。

第17回ヤマト福祉財団小倉昌男賞受賞者で、このプロジェクトをはじめたヒカリカナタ基金の竹内理事長は「みなさんの協力があって、ようやくネパールの子もたちに会うことができました。裸足で走り回ってケンカもせず、検査の順番を待っている子どもたちは、私の子どもの頃を思い出させてくれます。私は1000人の眼を治したい。ヒカリカナタ基金は、ヤマト福祉財団と力をあわせて、大勢の方の目の改善に努力していきたいと思っています。この活動が日本に伝わり、ネパールに伝わって、目の悪い人が見つけやすくなることを願っています」と、思いを話してくれました。

アイキャンプを終えて、TOSZのリーダーであるDr. サヒナは、話します。「私は目の見えない子どもが、自分で生活することができて、お金を稼ぎ、人生を広げられる、そのためのリハビリセンターを作りたい。それが私の使命だと思っています」。

1000人の眼を治したい

料で実施します。



夢へのかけ橋実践塾
新堂塾修了式・楠元塾中間報告

卒業は新たな目標へのスタート地点



2016年10月にスタートした第3期新堂塾の8名の塾生が2年間の研修を修了しました。



「利用者さんにどう成長してほしいのかを考え、必要な環境をつくり上げてほしい」と新堂塾長



「卒業後の情報交換も大切」と新堂塾1期生(社福)ゆたか福祉会の稲垣伸治さん



災害に遭っても前向きな楠元塾1期生(NPO)さくらんぼのお家の飯田 香代子さん



「給料増額だけではなく、利用者さんの働く力を伸ばすことこそ大切」と菅野教授



「困ったときは、塾で学んだ原点に立ち返れば問題も解決できます」と瀬戸理事長

2年や3年で成果が出なくても、
頑張り続ける強い意志を

作業分化、工程のライン化、5Sなどで利用者さんの仕事の拡大と給料増額を目指してきた第3期新堂塾。10月19・20日、2年間の研修を終えた8名の塾生たちが修了式を迎えました。「みなさんは、いろいろなことを学び苦労をしましたが、前に進むための糧となったはずです。いまはまだ満足できる数字に到達していません。胸を張って報告してください」と瀬戸理事長が挨拶しました。

も伸びてきました。今後も顧客獲得に営業を続けます。「作業の工程分化で利用者さんの仕事の幅が広がり、モチベーションも上がっています」。あの人のこの仕事は無理だと職員が勝手に決めつけていた。その間違いに気づいたことが一番の成果です」など、塾生は数字に見えない手応えも報告しました。

続いて弁当・配食サービスの第2期楠元塾塾生が中間成果を報告。修了式のお祝いに駆けつけた2塾の1期生2名も近況を発表しました。

「入塾当初は、1日に販売できる弁当は片手で数えられる程度。そんな私でも塾長のメニューや盛り付け方を真似しながら少しずつ改善し、卒業時には約130食まで伸ばしました」と楠元塾1期生の飯田さん。新堂塾1期生の稲垣さんは「塾在籍中には、誇れるような結果を残せていません。しかし、塾での学びを根気よく実践し続け、一つ成果を上げると次の課題を職員全員で設定。いまでは入塾時の目標の月額給料5万円を超えています」と伝えました。

新堂塾長は「私たちの仕事は、2年や3年で簡単に結果が出てはくれません。それでもあきらめず利用者さんのために努力を続ける強い気持ちを持ってください」と講評。楠元塾長は「卒業後の取り組みこそ大事です。先輩の姿を目標に自立して進める力を培ってほしい」とエールを贈りました。最後に新堂塾のアドバイザーである菅野教授が「働くを提供し、働く力を伸ばすために」をテーマに講演。新堂塾での取り組みの基本をおさらいし、利用者さんを育てていく上での今後の課題を段階的に示しました。翌日の分科会で8名の新堂塾塾生は、初心を忘れず取り組みを続ける意志を確かめました。

実践報告①
自然栽培パーティの
百姓は、百笑だ。



「より体に良いものごとと食材を探した妻は、自然栽培の農家と出会いました。妻の料理が、私を支えてくれています」と、食べる人・工藤公康監督。



「自然栽培は、食のルネッサンスです。2020年東京オリンピック・パラリンピックで世界に発信しましょう」と、つくる人・木村秋則氏。



2日目は、自然栽培をはじめるための、具体的な勉強会。



初日は、福祉施設が農業を行う楽しさ、意義を語り合いました。

自然栽培パーティ※第3回全国フォーラムin福岡

つくる人と食べる人、 ともに農業と福祉の未来を語り合おう。

※「自然栽培パーティ」は、(一社)農福連携自然栽培パーティ全国協議会の愛称です。

11月23日、福岡県のアクロス福岡にて「自然栽培パーティ第3回全国フォーラム」が開催されました。自然栽培パーティが目指すのは、無農薬・無肥料・無除草剤で付加価値の高い農作物を育て、障がいのある方が地域農業の新たな担い手となっていくこと。現在、参加福祉施設数は、全国で70にまで拡大しています。

初日は、自然栽培パーティ 磯部竜太理事長の「つくる人と食べる人、それぞれのお話を聞いて、もっと多くの方に自然栽培の楽しさを知っていただきたい」との主催者挨拶からスタート。続いて当財団の瀬戸理事長、福岡県福祉労働部障がい福祉課長が来賓を代表して挨拶をしました。

特別講演では「食べる人」の立場から、日本一に輝いた福岡ソフトバンクホークスの工藤公康監督が講演。「つくる人」からは、奇跡のリンゴの木村秋則氏が記念講演を行いました。

続いて実践報告へ。報告1では、佐伯康人氏をはじめ自然栽培を主事業にする四つの福祉施設が発表。「いろいろ失敗もしましたが、本当に野菜の味がする!と喜んでいただけるとき、苦労も吹き飛びました」「いい土をつくるのが、いい社会を築き、いい人を育てることもなっていく」と現場の声を伝えました。

報告2では、自然栽培パーティの磯部理事長をはじめ、流通や自然栽培を通して地域との係わりなどに取り組む4名が登壇。「農業で得るのはお金だけではない。地域の方、子どもたち、企業とも深いつながりが生まれます」「指導してくれる農家の方、流通を支える企業など、みんなで力を合わせ、福祉と地域の問題を一緒に解決していく、それこそが農福連携です」と報告しました。

翌日は、西新パレスで勉強会を開きました。自然農法歴42年の稲本農園の稲本薫氏が、自らの経験に基づく実践的なノウハウなどを紹介。(株)北海道有機認証センターの塩田彦隆氏は、これからの農業に不可欠となるJGAPの認証取得について解説しました。

第3期新堂塾塾長賞は…

塾長賞は、32名の利用者さんに最も高い伸び率での売上達成と給料支給が実現できた高垣 愛さん(社福)三木市社会福祉協議会 三木市立障害者総合支援センター「はばたきの丘」です。

「周りの同意を得るために塾長や菅野先生に助けていただいたことも。いまはPDCAで全部署が利用者さんのために同じ方向を向き、力を合わせています」



高垣 愛さん(社福)三木市社会福祉協議会 三木市立障害者総合支援センター「はばたきの丘」

決意も新たに2年目の研修へ 「第2期補元塾」

10月20日の分科会では、初日の中間報告をもとに、補元塾長が具体的なアドバイスを行いました。

「日々結果が出る弁当・配食サービスは、毎日でも改善することができます。1年間撮り続けた弁当の写真を見て、メニュー・盛り付けの良い点、悪い点をチェックしましょう。また在庫管理や販売管理の数字は正確に把握できるようになったか。働く環境として動線や衛生管理などは整備できているのか。1年間やってきたことを見直し、2年目の改善に取り組んでください」。



「1年前に思い描いた姿に到達できているのか、なにが足りないのかを見直していきましょう」と補元塾長

地域に根を張って共に生きる「農福連携」

有田みかんで全国にその名を知られる有田川町は自然も多く残り、農業が盛んな地域。しかし、過疎と耕作放棄地の問題はここでも例外ではありません。そんな有田川町で農福連携の成果を上げているのが「早月農園」です。瑞々しくて甘いミカンの評判も上々。さらなる成長が期待されています。

Data

社会福祉法人 有田つくし福祉会
早月農園
和歌山県有田郡有田川町



①急斜面での収穫「小さいミカンが美味しいです」と利用者さん ②台風で被災したビニールハウス ③支援員の大辻宰さん「目指すのは、障がい者施設(早月農園)ではなく、あくまで障がい者が中心となり農業を営む早月農園です」 ④西林剛男施設長と二人三脚で開設した早月農園。「専業農家でも無理なのに、福祉で採算をとるのは無理じゃないかと言われました」と西林久子理事長。⑤収穫したミカンモノレールに載せる浜田委員長と利用者さん⑥モノレールの荷物台車には、20kgのみかん満載のコンテナが10個積載できる ⑦理科室では加工食品用攪拌機を使ってジャムを製造中 ⑧2015年のステップアップ助成で整備した選果機

農機具の修復で収穫もはかどる！

冬の陽射しを凝縮したような黄色い実が、山の険しい斜面で収穫を待っていました。木々の合間を縫うように見え隠れするレールの上を、利用者さんが手摘みした山盛りのミカンが運ばれていきます。

柑橘類を中心に山椒や梅、野菜の生産を2012年から手がける早月農園ですが、その母体である「つくし共同作業所」では内職やパンの製造販売を行っていました。

「地域の方から好評をいただいて、パンはやり甲斐や責任のある仕事になったのですが、内職やパンの製造販売とはまた違った視点の作業である農業に着目しました。当時、畑仕事のセラピー効果も注目されており、廃校を無償でお借りできる話もあったので、そこを拠点に農業に取り組むことにしたんです」と支援員の大辻宰さん。

訪問したのは、ミカンの収穫がピークを迎えるころ。多い日の出荷は日に1トン以上。耕作放棄地を借りた柑橘類の栽培面積は現在4・25haまで増えました。その多くは山間。農業用モノレールは生産性の向上に不可欠です。しかし、長く放置されていたミカン畑のモノレールは劣化が激しく、安全性にも問題がありました。そこで早月農園は当財団の助成を活用し、2017年12月にモノレールの新設を含む修復整備を果たしました。

「新規購入に充てられる助成制度は多いのですが、修繕費を助成してくれるところはなかなかなくて本当にありがたかったです」

失敗はぎら。それでも辿りついた3万円

設備整備は、利用者さんにとっても良い変化



6



7



8



5



②



①



③

- ①箱入りミカン(3kg・¥1,200)
- ②みかんジュース(¥500)と各種ジャム・マーマレード(¥500)
- ③野菜便(¥2000~内容により異なる)

をもちたうしていると大辻さんは続けます。
「新しい機械に興味を抱いて、より前向きになる利用者さんは多いです。仕事への誇りや責任感が増しているのを感じられる利用者さんもいます。設備投資が、早月農園の売上、ひいてはみんなの給料アップにつながっていること、『そこに自分も関わっているんだ』という意識を利用者さんの多くが持っているのを、日々の支援の中でよく感じます」
農園を始めて2年目、2013年度の売上は、柑橘類以外の野菜販売やパンの訪問販売なども含めて約350万円。とくに農業の専門家がスタッフにいたわけではありません。近隣の農家からアドバイスを受けたら、講習会に参加したり…。でも、地形や土壌の違いもあって行き着くところは千差万別。挑戦と失敗の繰り返しだ

労働組合支部執行委員長 助成先訪問 Series 31

ヤマト運輸労働組合
和歌山支部執行委員長
浜田 明宏 さん



熱い思いがひしひしと 皆さんの姿から伝わってきました。

急斜面の段々畑で、利用者みなさんがミカンの出来具合を確認しながら一つひとつ丁寧に収穫していました。ときには中腰になり、背伸びをし、あるいは脚立を使って、この寒い中、汗びっしょりになりながら作業に取り組んでいる姿に、みなさんの「働く」喜びを感じました。私もお手伝いしましたが足は滑らずわ、腰が痛いわ、ミカン満載のコンテナの重いことに、その大変さを実感しました。



根気のいるジャム作りに真剣に取り組んでいる姿、助け合いながら仲間の一つのものを作り上げていく姿にも心が打たれました。

私たちの和歌山支部も、互いに思いやり励ましあい仲間を大切に、町一番の職場にしていきたいと、改めて意識しました。

つた」といいます。
それでもミカン農地を借り増して、規模を順次拡大。販路は様々なコミュニティでの情報収集や宣伝、口コミを中心に地道に広がってきました。当財団の実践塾に参加して知り合った仲間の作業所なども、早月農園のミカンの美味しさを知って買ってくれる大事な取引先になりました。その甲斐あって、2017年度の売上は1627万円。平均給料が初めて3万円を超えました。
— 思い描く夢のまだ途上 —
早月農園が思い描く「農福連携」とはどのようなものなのでしょうか？
「農福連携が謳われるようになったのは最近のこと。僕らがまず目指すのは、この地域にちゃんと根を生やして、地域の方たちといっしょに強

く生き残っていくことです。利用者さんの頑張りを早月農園から周囲に広げていって相乗効果が引き出せば…。そうした地域貢献こそが「農福連携」と呼べるものなのかなと思っています」
そのためには高いアンテナを張って、柔軟に対応できる力を身につけたい。近隣の作業所とも、より連携を深めていきたいと語る大辻さん。そして、利用者さんの平均給料を5万円の大台に早く乗せたい——。これも早月農園が抱くもう一つの夢です。
今回の助成ではモノレール以外に、じつは加工食品用攪拌機・充填機も併せて整備しました。ジャム・マーマレードの製造用です。規格外の果実に付加価値をつけて商品化。安定的に生産できれば、収穫期以外の売上アップも期待できます。3年先、5年先の早月農園が楽しみです。

この街で、
一緒に生きていく。



公益財団法人ヤマト福祉財団
障がい者のクロネコDM便配達事業

新しいポストへ配達するたびに、 新しい町の地図ができていく。

● 仙台市青葉区

宮城県仙台市。JR仙山線陸前落合駅から徒歩で約10分の住宅街に、社会福祉法人みんなの輪「わ・は・わ広瀬」があります。クロネコDM便事業を始めて、すでに10年以上。4〜5名のメイトさんで、1日平均約300冊を配達します。これは東北で2番目に多い配達冊数です。

「わ・は・わ広瀬」があるのは、仙台市青葉区。担当するエリアは、新しく開発中の新興住宅地と、古くからの町並みが続く地域です。両方を合わせるかなり広域となるため、車2台で配達。職員が運転し、それぞれにメイトさん2名が同乗します。月曜から土曜日まで稼働し、多い日には1日7〜800冊も配達しています。

に入ったDM便はかなりの重さとなるため、昇降機に積まれて、1階から2階へと運ばれます。そして、9時に仕分けがスタート。机の上に置かれた町名と住所が書かれたプレートの前に、次々とDM便を分類していきます。分類が終わると、すばやく地図にマーカーで配達先をマーク。この作業を「わ・は・わ広瀬」では、『地図落とし』と呼んでいます。

『地図落とし』

朝、センターでDM便を受け取った職員が「わ・は・わ広瀬」に戻るのは、午前8時40分頃。いくつもの箱

「ルートをお願いします」。『地図落とし』の終わったメイトさんが元気に手をあげます。すると職員が、効率よく配達できるように考えながら、配達ルートを地図上に線で書き入れます。ルートの配達順にメイトさんがDM便を並べ替えて、仕分け

DM便配達には人気の仕事 14名が待機中

毎日配達する中心メンバーのメイトさんが体調や都合などによりお休みすると、希望者が代わりに入ることが出来ます。希望者リストに名を連ねているのは、なんと14名。ローテーションでメイトさんの仕事を担当します。ヤマト運輸のユニフォームを着て、外に出て活動できるDM便配達。利用者さんにとって人気の仕事なのです。

複数の目と耳で確認するから 間違えない

職員の片岡聖子主任は、毎日気を



名畑康宏さん(右)は、配達地域の地図をすべて把握しているメイトさん歴4年目のベテラン。大石敏幸さん(中)は、メイトさんになって2ヶ月目。「みんなで協力して仕事をするのが楽しい。早く覚えたい」と意欲的。「わ・は・わ広瀬」片岡聖子主任(左)。



上/町名と番地を書いたプレートの前に、DM便をすばやく仕分けしていく本部正直さん。
下/配達先を地図にマークする名畑康宏さん。DM便が複数ある場合は「正」の字を書き入れます。

※ 2015年4月1日より、クロネコメール便配達にはクロネコDM便配達へと変わりました。



軽やかな足取りで配達する菅原石太郎さん。「自分の地図を作って、配達先のエリアを約1ヶ月で覚えめました」。



メイトさん歴1年2ヶ月、いつも前向きな菅原石太郎さん(右)。「配達することが好き」と、明るく元気な佐藤海飛さん(中)、職員の濱中隆仁さん(左)。



DM便をていねいに投函する大石敏幸さん。



「おはようございます、DM便です!」と元気に挨拶する佐藤海飛さん。

つけていることについて「必ず車の中で次の配達先を声に出して読み上げます。今日も、同じ町名で同じ名字、最後の番地だけが違う配達先を、『地図落とし』の段階で間違えてマールクしてしまいました。車の中で気づいてドキッとしましたが、複数の目で見ても、耳でも聞いて確かめると、間違いに気づきます」と話します。11時少し前に、配達エリアの中間

地図を作りながら配達する新しい町

あたりで2台の車が集合。それぞれの進捗状況を報告し、予定よりも進んでいないエリアの配達があることもう一台が助けるなどの調整をします。

「わ・は・わ広瀬が担当する新興住宅地は、石と緑の町と呼ばれるほど、美しい景観が続く新しい町。子育てしやすい町」というキャッチフレーズもつけられています。新しい家が次々と建てられ、学校や保育園、病院もできました。既存の地図には載っていない家が多いので、新しい家の名前を書き込み、地図を作りながら配達しています。

片岡主任は「あまりの広さと、家の造りが似ているので、どこを走っているのか時々わからなくなりますが、自分で地図を描いて頭に入れて気になる建物を目印にするなどして覚えめました」と話します。ほとんどの家の玄関前に石の階段があることも、町の特徴です。ポストが門柱にある家もありますが、階段を上った先の玄関のポストに配達する家も少なくありません。12月から3月まで、降雪量が多く凍結することの多い仙台では、この階段が危険なスポットになります。メイトさんの本部正直さんは「滑るから階段は危ない。冬は気をつけて上り下りしています」と話します。

仕事を通して少しずつ変わっていく

「わはわ広瀬の管理者、安田たかねさんはメイトさんたちの変化について、「DM便の仕事をしていると、室内のルーティンの作業では気づかなかつたことを発見します。たとえば、俊敏に動けるとか、体力があるとか。また、配達先に着く前にスキャナーを準備するなど、それまでしていなかったことができていることに気づくこともあります。ほんの小さな変化ですが、見つけるととてもうれしくなります」と話しました。

高い品質を維持する頼りになる存在

ヤマト運輸仙台愛子支店 佐藤雅希店長は「ほぼ誤配がなく、安心してお任せできます。メイト連絡会などで交流し、朝の引き取りの時も言葉をお交わすなど、風通し良く進めていきたい。どんどん広がるエリアはDM便も増える。頼りにしています」と今後にも期待を込めます。ヤマト運輸宮城主管支店 サービスセンター 菅原光悦センター長は「二人で配達していると、思い込みもあって間違いが生じることがあります。必ず複数の人の目で確認するなど、職員さんたちの誤配を生まなため、日々の取り組みは素晴らしい。それが高い品質につながっています」と語りました。



▶「わ・は・わ広瀬」管理者の安田たかねさん。「みんな元気に挨拶ができるようになりました。地域にもっと溶け込んでいきたい」と話します。

◀前列左から／大石敏幸さん、菅原石太郎さん、佐藤海飛さん、本部正直さん
後列左から／「わ・は・わ広瀬」管理者 安田たかねさん、森智子さん、石上昭弘さん、「わ・は・わ広瀬」片岡聖子主任、ヤマト運輸宮城主管支店 仙台愛子支店 佐藤雅希店長、ヤマト運輸宮城主管支店 サービスセンター 菅原光悦センター長、ヤマト福祉財団東北支部 小原守事務長



「わ・は・わ」の意味は、「輪は和」。人と人の輪、人と自然の和を大切にするといい想いを込めています。地域の中で少しずつ変化していくメイトさんたち。「おはようございますDM便です!」と、町に今日も元気な明るい声が響いています。

株式会社ゲオビジネスサポート/DVD・CD・ゲームソフト・書籍などのレンタル・販売を展開するゲオグループの特例子会社。全国で149人の障がい者社員が働いています(2018年10月現在)。



左から狭山店店長の荻野さん、金子さん、ストアコーディネーターの後藤さん

夢は全国の水族館を回ること

「仕事をしてお金が貯まったら、いろんなところに出かけたい。できれば全国の水族館を回りたいです」と金子さん。夢を実現するために頑張っています。

■ヤマト自立センター スワン工舎 就労に必要なスキルの習得はもちろん就労先の開拓からジョブコーチによる就労後のサポートまで一貫したプログラムで、障がい者の自立支援に取り組んでいます。

20歳になったばかりの金子玲央さんが働いているのは、全国に1200店舗を展開するレンタルDVDショップゲオ狭山店です。金子さんが担当するのは、店舗内外の清掃です。一口に清掃といっても、商品のホコリを取ったり、陳列棚の拭き掃除や床のモップがけ、トイレや駐車場の掃除など、さまざまな仕事をこなしています。

特例子会社の(株)ゲオビジネスサポートに本採用になってから7カ月、「実習の時は、作業の手順もモップの使い方もわからなかったけれど、彼の良いところは、覚えようとする真面目さ、素直さ、自らやろうとする姿勢でどんどん習得していくことです。今では見たことのない道具があっても、ちょっと教えれば使えるようになる。応用力が出てきました」とストアコー

スタッフの制服を着ることを目標に



ゲーム機種のガラス面から操作盤までピカピカに

棚から商品を取り出し、丁寧に拭きます

金子 玲央 さん 株式会社ゲオビジネスサポート(平成30年3月11日入社)

取材の途中にも、お客さまが通ると「いらっしゃいませ」と声をかける金子さん。仕事もプライベートも充実しています。勤務時間8:30~15:45



「この制服を着ることを目標にしよう」と金子さんに話したスタッフの五藤章徳さん(右)とストアコーディネーターの後藤伸一郎さん

「店舗経験者がストアコーディネーターとして店の要望を汲み取り調整することで、障がいのある社員の能力を活かしていきたいと考えています。採用にも積極的です」。

お昼休みはいつも一緒に取っているという、スタッフの五藤章徳さんは「本採用になったとき、お店の制服を着ることを目標にしようと、金子さんに言ったんです。私は息子が二人いますが、彼は3人目の息子のようなもの。仕事も指示をしなくても進んでやることができるようになってきました。彼が制服を着るようになるのが私の夢です」と話してくださいました。

最後にストアコーディネーターの後藤さんから「スタッフとのコミュニケーションもとれるようになり、社会性が出てきて、自立しているという姿勢が見えてきました。20歳になって、頼もしく感じますね」と、うれしい言葉をいただきました。

デザイナーの後藤伸一郎さん。
ゲオビジネスサポートで働く障がいのある社員は全国で149人。24人のストアコーディネーターが店舗と障がいのある社員を橋渡しする仕組みを作っています。

YWF TOPICS

クロネコDM便配達本人による特別報告会

全国に319ヵ所、約1600名の方が活躍されているクロネコDM便配達事業。地元で報告会の開催を希望する施設を公募、そこで配達する施設の報告会です。

さわやか工房(山口県周南市)・しあわせ(山口県光市)



11月13日周南市徳山駅前賑わい交流施設で、「さわやか工房」と「しあわせ」が共同で報告会を開催しました。さわやか工房はクロネコDM便の配達を始めて10年、しあわせはもうすぐ1年になります。

報告会には50名の参加者が集まり、毎日の配達の様子をビデオで紹介した後、4名のクロネコメイトさんから、また以前は施設で現在は個人契約で配達しているさわやか工房の卒業生から報告がありました。参加者とのディスカッションもあり、質問にメイトさんたちはそれぞれの言葉で丁寧に説明し、来場者は熱心に耳を傾けていました。

コリアンダーの家(長崎県長崎市)



「コリアンダーの家」は、11月21日に法人の20周年記念イベントとして、報告会を開催しました。平成16年からクロネコDM便配達を始め、現在は7名のクロネコメイトさんが、1日平均600通、多いときには2000通を超えるクロネコDM便を配達しています。

当日は104名ものたくさんの方々が集まり、クロネコDM便配達の業務内容を説明した後、7名のクロネコメイトさんからは配達をしていてうれしかったこと、大変なこと、日々こころがけていることなどを報告しました。来場者は温かな拍手を送っていました。

北海道胆振東部地震で被災したグループホームに300万円を助成



入居予定住宅の前でみなさんと記念撮影。助成金贈呈書を持つ(NPO)自立支援センター歩歩路 洞口理事長(左端)、感謝状を受け取ったヤマト運輸札幌主管支店 藤崎主管支店長(中央)、ヤマト運輸労働組合札幌支部 宮阪委員長(右から3番目)

9月6日の北海道胆振東部地震により、札幌市東区の(NPO)自立支援センター歩歩路が運営している共同住宅ペーターが半壊。入居していた重度身心障がい者4世帯5名が、プライバシーの確保も難しい避難生活を余儀なくされています。ヤマト福祉財団は、新しく見つかった移転先の重度身心障がい者向け住宅の改装費用600万円のうち、300万円を助成。11月14日贈呈書を現地にお届けしました。12月中旬に工事・引越が終わり、暖かい居室でお正月を迎えました。

9月6日の北海道胆振東部地震により、札幌市東区の(NPO)自立支援センター歩歩路が運営している共同住宅ペーターが半壊。入居していた重度身心障がい者4世帯5名が、プライバシーの確保も難しい避難生活を余儀なくされています。ヤマト福祉財団は、新しく見つかった移転先の重度身心障がい者向け住宅の改装費用600万円のうち、300万円を助成。11月14日贈呈書を現地にお届けしました。12月中旬に工事・引越が終わり、暖かい居室でお正月を迎えました。

第4回新堂塾フォローアップ研修

2018年11月16-17日

私たちの仕事は「障がい特性への挑戦」



新堂塾長が利用者さんの手を取り指導(出愛いの里)

新堂塾フォローアップ研修が、1期生の塾生施設「出愛いの里」(姫路市)で開催されました。1年ぶりの再会です。初日は出愛いの里を見学後、それぞれの実践を報告。「生活介護の利用者さんの働く力をどう育てるか」の実践報告もありました。翌日の新堂塾長の講演では、塾長施設であるチャレンジャーの現状から、DM業界の変化について紹介。大量のDMを郵便番号ごとに件数をチェックするための検査機を導入することで対応できた具体例を話されました。アドバイザーの菅野先生は、「利用者の働き続ける態度を育てること、障がいを言い訳にしないでそこに挑戦するのが職員の仕事だ」と熱く語りました。

スワン カフェ&ベーカリー 成城店 1月16日オープン!!



株式会社スワンの直営店として、世田谷区の成城に新たにオープンする店舗は、近隣のみなさまの憩の場としてのご利用をイメージして設計されています。窓際にはテラス席も用意し、ペットといっしょにコーヒーブレイクをお楽しみいただけます。

住所：東京都世田谷区成城1-4-13
営業時間：11時～20時(年中無休)

『わたしで最後にして ナチスの障害者虐殺と優生思想』

藤井克徳著 合同出版刊 1,620円



本書は、第二次世界大戦時にナチスドイツで行われた「T4作戦」という障がい者虐殺の史実を紹介しています。著者は、同作戦の根底にある「強い人だけが残り、劣る人や弱い人はいなくてもいい」との優生思想が現代にも残存していることを指摘し、その誤った思想の克服や障がい者の尊厳を保つために自分たちで何ができるのかを提言しています。

この本を先着10名の方にプレゼントします。財団ホームページのお問い合わせ窓口で「本希望」を明記の上、お名前・所属・送付先を入力し送信ください。

長くつ下のピッピ™の世界展

ーリンドグレンが描く北欧の暮らしと子どもたちー



『長くつ下のピッピ』出版社用ポスター原画(部分) 1940年代後半
 イングリッド・ヴァン・ニイマン画
 Illustration Ingrid Vang Nyman © The Astrid Lindgren Company.
 Courtesy of The Astrid Lindgren Company



『小さいロッタちゃん』表紙原画 1992年 イロン・ヴィークランド画
 Illustration Ilon Wikland. © Ilon Wikland. Courtesy of Seriegalleriet art gallery, Stockholm/Sweden



『やかまし村の子どもたち』挿絵原画 “カバンをもち、こわがる6人の子
 もたち” 1945-1946年 イングリッド・ヴァン・ニイマン画
 ※スウェーデン国立図書館所蔵(ユネスコ“世界の記憶”登録)
 Illustration Ingrid Vang Nyman © The Astrid Lindgren Company.
 Courtesy of National Library of Sweden, Stockholm

ピッピ誕生のきっかけ

『長くつ下のピッピ』で世界的に有名な児童文学者のアストリッド・リンドグレン(1907~2002)はスウェーデンに生まれ、北欧社会において男女同権や女性の社会進出に関しても先駆的な女性でした。

1941年の冬、リンドグレンは、風邪で寝込んでいた愛娘を喜ばせようと、天衣無縫な女の子の活躍を次々に即興で語りました。これが『長くつ下のピッピ』誕生のきっかけです。そして1945年に出版された世界一強い女の子ピッピの本は、またたく間に世界中の子どもたちの人気を集め、今日まで70年以上にもわたって読み継がれてきました。

“世界の記憶”に登録された原画

2005年には、彼女の手書き原稿を中心に構成した資料が「アストリッド・リンドグレン関連資料」としてユネスコの“世界の記憶”に登録されました。本展にはこの世界の記憶に登録されたスウェーデン国立図書館所蔵『長くつ下のピッピ』等の貴重な原画を始め、スウェーデン、デンマーク、エストニア他より、「ピッピ」「ロッタちゃん」「やかまし村」シリーズ等の原画や、オリジナル原稿、愛用品など約200点が出品され、その多くが日本初公開となります。

さらに、本展のために制作された特別映像や、ピッピの住むぐたぐた荘を精巧に再現した大型模型もあります。どうぞお楽しみください。

本展はヤマトグローバルロジスティクスジャパン株式会社が作品の輸送・展示をしています。

DATA

- 開催期間 ▶ 2019年2月8日(金)~3月4日(月)
- 休館日 ▶ 会期中は無休です
- 開催場所 ▶ 美術館「えき」KYOTO
- アクセス ▶ JR京都駅下車すぐ ジェイアール京都伊勢丹7階隣接
- 開館時間 ▶ 10:00 ~ 20:00(最終日は17:00閉館)
 ※最終入館は閉館30分前まで
 ※ただし、百貨店の営業時間に準じ、変更になる場合があります

観覧料 ▶	一般	高・大学生	小・中学生
当日	800円	600円	400円
前売	600円	400円	200円

※2018年12月1日(土)より2019年2月7日(木)まで前売券販売
 ※障がい者手帳をお持ちの方と付き添いの方1名まで前売料金になります

- 主催 ▶ 美術館「えき」KYOTO、京都新聞
- 支援 ▶ スウェーデン大使館、デンマーク大使館、エストニア大使館
- 協賛 ▶ 野崎印刷紙業
- 協力 ▶ アストリッド・リンドグレン社、コピーライツアジア、徳間書店、岩波書店、偕成社、スウェーデンハウス
- 企画 ▶ 東映、東京富士美術館
- 監修 ▶ 菱木見子(北欧児童文学翻訳家)
- 問い合わせ先 ▶ 美術館「えき」KYOTO ジェイアール京都伊勢丹
 TEL 075-352-1111(大代表)
<http://kyoto.wjr-isetan.co.jp/museum/>
 公式ウェブサイト: <http://www.pippi-ten.com/>
- 巡回情報 ▶ 名古屋会場 松坂屋美術館
 2019年4月27日(土)~6月16日(日)
 福岡会場 福岡市博物館
 2019年7月6日(土)~8月25日(日)(予定)
 愛媛会場 愛媛県美術館
 2019年9月~11月(予定)



『長くつ下のピッピ(ヴィンテージ)』1969-1971年
 リサ・ラーソン(グスタフスベリ社)作
 © Lisa Larson. Made by Gustavsberg Sweden. Courtesy of The Astrid Lindgren Company

ご協力ありがとうございました



スワンのクリスマスケーキ

今回もみなさまのご協力に感謝いたします。

2018年12月に販売したスワンのクリスマスケーキが、全部で10万2101個となりました。

全国のヤマトグループのみなさま、ご協力をありがとうございました。

これからもみなさまに喜んでいただけるよう、スタッフ一同邁進していきます。

これからもよろしくお願いたします。

株式会社スワン

